

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 35

学校名・団体名	福井市美山中学校
HPアドレス	<a href="http://www.fukui-city.ed.jp/miyama-j/">http://www.fukui-city.ed.jp/miyama-j/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	未来の主権者として北陸新幹線福井開業後の 戦略を探る
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>2022年には、北陸新幹線福井駅が開業する。現在の中学生はその頃に有権者となり、将来の福井県のあり方を問われることになる。2015年には金沢駅が開業し、関東方面からは多くの観光客が押し寄せ、企業が進出してきている。金沢市は開業に向けてまちづくりを戦略的に行ってきたからこそこのように発展があった。私たちは福井駅開業後、何を軸においてまちを発展させていくことが最善かを考えた。</p>	

## 1 活動の内容

### (1) 活動計画に至るまでの経緯 (H27年4月~H28年6月)

福井市美山中学校では、平成27年度入学生に対して、3年間を通じた地域学習、ならびにキャリア教育を計画し実施している。1年次、「美山の宝とは何か」というテーマをもとに地域学習を行ってきた。美山地区は90%を森林が占める自然豊かな地区であるが、商業施設や公共交通機関が少なく、生徒は自分たちの暮らす地区を魅力的に感じていなかった。しかし、地区の調査(さまざまな石碑をめくり、美山地区の過去を知る活動)や伝統的なそば打ち体験、豊田三郎氏の個展見学、寺の訪問などを通してあらためて美山地区の良さを知り、それらを後世に残そうとしてきた人々の思いにも気づくことができた。学校祭では自分たちも美山地区の良さを次の世代に残したいという思いから、文化祭に地域の人々を呼び、自分たちが調査した美山地区のよさを発表したり、パンフレットを市役所に置いてもらったりする等の活動を行った。

また、自分たちも美山地区の宝となるために、美山地区の産業である「美山杉」を扱っている森林組合、豊かな水を使って精密な高圧配管用繋ぎ手をつくる日本AMC、杉のおがくずを利用したカブトムシの飼育販売所・しめじ工場などで職業体験を行った。美山地区で働く人々の「美山の良さを発信していきたい」という思いを直に受け取り、将来の地域の担い手として美山地区を発展させていきたいという気持ちが芽生えた。

しかし、2年生になって1年生の学習を振り返ると、美山地区の将来はこのままでは不安だという考えが多数を占めた。それは、生徒が身をもって感じている「人口減少」という現状である。本校は生徒の祖父母が学生だった時代には約800人の生徒がいたが、現在ではその10分の1の80人しかいない。生徒には人口の減少によって文化や産業の後継者不足が生じ、美山地区は衰退してしまうのではないかと考えたのである。一方で、朝学習の時間に読んだ新聞記事から、隣県の石川県は新幹線開業によってまちが活性化し、観光客や企業が増加していると知った。生徒は新幹線に期待を寄せる一方で、どうやって魅力あるまちにするかという課題が生まれた。そこで、自分たちが主権者となる2022年頃に北陸新幹線福井駅が開業となることを見据え、金沢市の戦略を探り、まちづくりに生かそうと考えた。美山地区だけで都会から人を呼ぶことは難しいという考えもあり、福井県全体での連携も視野に入れて観光や企業誘致の戦略を考えることにした。

5月25日、金沢市の戦略を探るために、金沢市内を探索した。そして6月~9月上旬にかけて調査結果を共有し考察した。生徒たちは「金沢駅周辺は市民が生活するエリアと観光エリアを分け、観光客にとっても市民にとってもよいまちづくりがなされていた。兼六園、茶屋街、あめ屋、近江町市場など金沢の伝統を伝える観光地、のどぐる、金沢カレーなど金沢の食や、観光客が体験したり買い物したりできる現代的観光地、それをつなぐ公共交通機関などが金沢駅周辺の発展の戦略だ」と考えるようになった。



### (2) 福井駅周辺の観光戦略について考える (H28年9月上旬~12月上旬)

金沢駅周辺の観光の戦略に気づいた生徒は、福井駅周辺の戦略について詳しく知りたいという気持ちが芽生えた。普段何気なく買い物をしたり遊んだりしているまちであるが、金沢と同じように観光客としての目線からまちを見ようと考えたのである。

11月16日、福井駅周辺への校外学習を行った。普段は自動車で行くが、公共交通機関の問題点も探りたいということで、JR越美北線を使用して福井駅へ行くことにした。JR越美北線は電化されておらず軌道車であること、駅は無人駅でトイレがないことから電車の中にトイレがあり非常に狭いことなど、生徒にとっては驚くことばかりであった。



校外学習ではまず現在福井県庁がある福井城跡へと向かった。金沢は観光のために金沢城を再建しているが、福井県は城跡に県庁が建設された。しかしそれでも少数ではあるが観光客が石垣や堀を見ていた。その後、外国の日本庭園雑誌で有名な養浩館庭園を訪問した。屋敷の中から庭を眺めるという日本でも数少ない庭園であり、それが外国人にとって人気の理由だということがわかった。次に、その隣にある郷土歴史博物館にて学芸員の方からふくのまちづくりについて話を聞く。福井市は第二次世界大戦の福井空襲、その3年後の福井地震によって壊滅的な被害を受け、歴史的な建物がほとんど破壊されてしまったことから、金沢のような歴史的な町並みがあまりないということがわかった。しかし、まちづくりにおいて、少しでも復元を行い文化を残していこうという動きもあるようであった。そして駅前に新しく出来た「福井市自然史博物館別館 セーレンプラネット」を訪問した。生徒は5月に訪問した「コマツサイエンスヒルズ」と比較をしながら館の中をまわっていた。コマツサイエンスヒルズは3Dであるのに対し、セーレンプラネットは高解像度の映像を売りにしているということがわかった。



校外学習を終え、調査結果を話し合ったところ、「福井は金沢に負けてしまっている」という意見が多くでた。しかし、「福井には自然があるのではないか。」「自然を体感できるまちとしてまちづくりをしてはどうだ

ろうか」「金沢にあった伝統文化の体験のように福井や美山は自然を体験できる活動を取り入れてはどうか」という考えが生まれた。そしてまちづくりの有識者にこの意見をぶつけてみたいという気持ちが芽生えた。

### (3) 福井のまちづくりについて有識者に意見をぶつける（12月下旬～1月下旬）

NPO法人の「ふく+」様より「きちづくり福井」代表の藤井啓文さんを紹介していただいた。この方は福井駅周辺や郊外の大型ショッピングモールの設計・運営に関わり、現在は福井駅周辺の商店街の活性化や「ヤマカツ」とよばれる山林での活動をしている方であった。

1月6日、藤井さんに来校していただき、私たちが考えてきた福井県の戦略に至るまでの過程と結論を伝えた。すると藤井さんは「すばらしい活動である」と褒めてくださった。一方で、国の三重指定を受けている朝倉氏遺跡についてや、普段から生活している人には気づきにくい美山の魅力についてなど、身近すぎてわからなかった美山のよさを紹介してくださった。そして藤井さんは、「暮らしている人たちは「山しかない」と思っている美山地区であるが、山林をバイクで走ること、森林を歩くこと、ネイチャークラフト、温泉、釣りなど都会にはないレジャーがあり、放置森林や耕作放棄地の活用、ドッグランやバーベキュー体験などまだまだ産業となるものがある。そして、都会から来た人と一緒に活動することで都会の人々と仲良くなり、移住者を増やしていくことが出来る」ということを生徒に説いてくださった。

1月11日と13日には、藤井さんが放置山林を活用するために作った炭焼き小屋を訪問した。炭焼き小屋では杉とは違って建材になりにくいナラを使って炭焼きを行い、商品開発を行っているところを見せていただいた。生徒は炭の需要があるのか疑問に思ったようであった。藤井さんに質問したところ、福井で有名な焼き鳥屋や焼き肉屋が多く炭を使っているという返答が帰ってきて納得したようであった。また、ナラの木にチェーンソーで切り込みを入れただけの「スウェーデントーチ」が都会では高値で取引されていることを知り、驚いていた。生徒の家庭の半数ほどが山に土地を所有しているが、そのほとんどがどこに山があり、何をしているかを知らない状態であった。藤井さんも驚いた様子であった。生徒たちにはもっと地区をよく知り、一緒に自然の中で活動してくれる「関係人口」を増やすことから始めてみようという気持ちが芽生えたようであった。

そのためにも、美山地区を知ってもらうこと、そして人の流れを都会から福井へ、福井から美山へとつくるのが大切であると考えようになった。そこで2月に福井駅前に美山特産の美山杉でつくったベンチを設置し、同時にパンフレットを配布する活動を行った。ベンチ作りには美山森林組合の協力を得ることができ、地域ぐるみでの活動となった。



## 2 成果

インターネットを使った調べ学習ではなく、実際にその場所に出向いて体験し、人とふれあうことで生きた知識を得ることが出来た。また、「まちづくり」という視点からまちを見直すことで、普段生活している福井市・美山地区のよさや問題点を発見することも出来た。自分の力で集めた知識は体験が伴っているため、様々な知識と結びつけたり、違う文脈において転移させて活用していったりすることがしやすい。このため、総合的な学習の時間だけではなく、普段の教科の学習や学校生活においても学習内容が結びつくことがあった。将来の有権者として、問題意識をもち、自分で足を運んで知識を得て、得た知識を関連づけて新たな知をつくり出し、発展のビジョンを描き、そして自分の意見を伝えることができる人々になるための一歩を踏み出すことが出来たのではないかと考える。

## 3 今後の課題

3年次には、「福井県の戦略を発信し、広い視野をもって将来を考える」というテーマで活動する。修学旅行1日目に東京大学を訪問し、学生に自分たちが考えた福井県の戦略を発信する。他県、他者の視点を取り入れることで福井県だけではなく日本全体の発展へと考えを深めさせたい。この際には、「福井県の自然の中で共に活動してみないか」と大学生に声もかけてみたい。

その後、美山地区出身の前田又兵衛氏が創業した前田建設工業（福井豪雨による水害時に復興に尽力していただいた）を訪問し、会社としてどのようなことを考えながら日本のために働くのかについて知る。そして、生徒一人一人が美山地区・福井県・日本の主体として活躍していくことを自覚し、自分の適性に合わせて進路を選択してほしいと考えている。